

樹医からのアドバイス (Vol.15)

～樹木の名前にも方言があります「受け継ぎたい～引き継ぎたい」～

出雲市樹医センター

樹医 永瀬 明

人が暮らす中で、伝達する手段としての言葉に標準語と方言があります。方言は気候、風土、生活、文化の中から生まれ育んだものです。今回は方言を通してサルスベリを紹介します。

【方言のいわれ】

出雲・隠岐地方ではサルスベリのことを「コチョコチョ」と呼んでいました。樹皮をさすると、かゆがって梢端の枝葉まで動いたように見えたことから、樹木に名付けたのでしょうか…？樹木を見て触れた先人がつけたユニークでほのぼのと温かみがある名前です。

【樹木の特徴】

樹皮が薄く剥がれ、新しく滑らかな面ができると、木のぼり上手の「サル」でも滑るほどであることから名付けられたと言われています。また、花を長く楽しむことができることから、百日紅とも呼ばれます。

【病害虫の防除】

気温や湿度が高くなる5月ごろから病気にかかりやすくなります。4月中ごろから、樹木に異変がないか注視することが必要です。被害の主な原因として、ウドンコ病・すす病・カイガラムシなどがあります。防除方法については樹医におたずねください。

【開花後の作業】

開花後の作業の一つにせん定があります。せん定の時期や位置を間違えると花が咲きません。せん定時期には「花後すぐ切る」または「秋から翌年の芽吹く前までに切る」の二通りがあります。サルスベリは春に伸びた枝に花をつけるので、「秋から翌年の芽吹く前までに切る」ことが望ましいです。



* 正応寺のサルスベリ *